

授業科目	嚥下障害 I (基礎と評価)				
担当者	中村 靖子				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・ 摂食嚥下障害とは何かを学ぶ。
- ・ 正常嚥下の解剖やメカニズム、摂食嚥下障害の検査・評価等、基本的な事項について学ぶ。

## ■ 到達目標

- ・ 摂食嚥下障害とは QOL 全てに関わる障害であるということを理解することが出来る。
- ・ 嚥下に関わる解剖、生理、神経機構、病態を理解することが出来る。
- ・ 摂食嚥下障害の評価法を理解し、簡易検査は実施できるようになる。

## ■ 授業計画

- 第1回 摂食嚥下障害の概論、解剖（口腔）
- 第2回 解剖（咽頭）
- 第3回 解剖（喉頭と食道）
- 第4回 生理と神経機構（口腔と咽頭）
- 第5回 生理と神経機構（喉頭と呼吸）
- 第6回 嚥下モデル
- 第7回 中枢性疾患、末梢性疾患
- 第8回 神経筋疾患、器質性疾患
- 第9回 サルコペニア、フレイル、廃用症候群
- 第10回 評価とは何か
- 第11回 全体像や観察評価の視点
- 第12回 発声発語器官の評価
- 第13回 摂食嚥下簡易評価（RRST、MWST、FT）
- 第14回 その他の評価（超音波検査、咳反射テストなど）
- 第15回 リスク管理とまとめ及び実技試験の説明

## ■ 評価方法

試験100%  
筆記試験（100点満点）と実技試験（100点満点）。どちらも60点以上で合格。両試験に合格すること。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義内で小テストを行いますので復習をしておいてください。また、演習が多い講義です。スムーズに評価ができるようになるまで練習をしてください。

## ■ 教科書

書名：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学

著者名：倉智雅子

出版社：医歯薬出版

書名：摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション

著者名：稲川利光

出版社：Gakken

書名：言語聴覚士ドリルプラス摂食嚥下障害

著者名：大塚裕一、福岡達之

出版社：診断と治療社

## ■ 参考図書

書名：摂食嚥下リハビリテーション 第3版

著者名：才藤栄一 植田耕一郎

出版社：医歯薬出版

## ■ 留意事項

教科書は嚥下障害ⅠとⅡ共通で使用します。

後半の実技演習では別途持ち物の指示をしますので忘れないように持参してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって

摂食嚥下障害を学ぶ上で基礎となる科目です。しっかりと基礎知識を身に付けてください。